

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第5号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和6年8月30日発行

納得する景色

校長 越智 宏明

2学期が始まり、学校に生徒たちの元気な声に戻ってきました。長丁場の2学期となりますが、お互いの魅力を発揮し合ってまた認め合って、充実した生活を送ってもらいたいものです。

この夏休みは、大原中の生徒たちのたくさんの活躍を見ることができました。運動部の県大会そして関東大会、演劇部や吹奏楽部のコンクール、美術部作品展や中学生英語弁論・暗唱コンクール、「ストップいじめ!子どもサミット」への参加、さいたま子どもミュージカルへの出演と、本当にたくさんの場に出かけ、元気をもらうことが出来ました。本当にありがとう!

さて、今年の夏、日本中の話題をさらったのは夏の全国高校野球大会でベスト8に進出した島根県立大社高校の野球部の生徒たちでしょう。普通の公立高校の生徒たちが並み居る私立の強豪に立ち向かう全力プレーと清々しいまでのスポーツマンシップは、「神話の国から来た球児」と大きな話題となりました。

ところで、その大社高校のある島根県出雲市に、私はある思い出があります。実は20歳の時、人生で初めて「家出」をして、数日間滞在した先が出雲市だったのです。

大学3年生の3月、私は進路のことで悩んでいました。ずっと中学校の教師になりたくて、教職課程を履修していたのですが、当時の教員採用試験は競争率が30倍超という狭き門。一方で時代は正にバブルの絶頂。就職は引く手あまたという状況で、一緒に教職課程を履修していた仲間の多くが就職に方向転換をしていきました。私も自分のやりたい道を通すか、時代の流れに乗るか、悩みに悩んだ挙句、どこか違う地でゆっくり考えたいと思い、「家出」を決意したのです。思い立ったらすぐに実行しようと、大学の近くの東京駅に向かい、新幹線以外でそこから最初に出る電車の終着駅まで行こうと決めました。まあ、行っても熱海ぐらいまでだろうとタカをくくって…。改札口の上の電光掲示板を見て驚きました。次に出る電車は「寝台特急出雲、出雲市駅行き」。しかも発車は10分後。財布を見ると何とか片道分くらいはありそうです。ここでひるんだら、何も決められない自分のままのような気がして、躊躇なくみどりの窓口に飛び込み、乗車券を購入、電車に飛び乗りってと、ここまでは格好良かったのですが、終着駅で降りてみれば、帰りの電車賃はおろか、その日の食事代さえもない有様で、途方に暮れる結果に。やむを得ず現地で日雇いのバイトを探し、その親方のような方の家に泊めてもらうことになりました。その家には同じ世代の若者が数人共同生活をしていて、話をしてみると、全員が働きながら日本中を旅している人たちでした。その中の一人、神戸からバイクで来たという同い年の若者と仲良くなったのですが、彼にいつまでここにいるのか尋ねたところ、「宍道湖で美しい夕陽を見るまで(宍道湖は夕陽の名所として有名です)」という答えが返ってきました。「いつまでも待つんだ、自分が納得する景色を見られるまでいようって」。その時、自分の心が決まった気がします。自分も納得する景色が見られるまでやりたいことを続けてみよう。後悔だけはしない生き方をしよう。

狭き門は、想像以上に「狭き門」でした。教員採用試験は何度受けても1次試験で不合格、その間にバブルが弾けて就職氷河期と言われる時代に突入、就職も難しい状況。結局臨時教員を7年続け、8度目の挑戦でようやく念願の本採用教員になることが出来ました。でも諦めずに「納得する景色をみたい」と思い続けることができたのは、出雲市で出逢ったあの若者の何気ない一言がきっかけだったような気がします。

出雲市のシンボルである出雲大社は、「縁結びの神」として有名な場所です。20歳の時の無謀な思い付きでこの地を訪れたことによって、大原中の皆さんとの縁を結んでいただき、そして今年の夏「納得する景色」をたくさん見させてもらったのかなど、諦めなくてよかったなど、つくづく感じた夏休みでした。



夏休み、市内県内にとどまらず、関東地方の色々な場所で大原中学校の生徒たちの全力で、喜びに満ちた顔や悔しさにむせび泣く顔をたくさん見ることができました。